

「胃 形態とその機能」第2版

京都府立医科大学教授・公衆衛生学 川井 啓市 編集
 大阪府済生会野江病院消化器科医長 井口 秀人 編集協力
 京都第一赤十字病院胃腸科副部長 清水 誠治

東京女子医科大学成人医学センター顧問

竹 本 忠 良

中世史家横井清の「東山文化」は、“京の町は三方を山で囲まれている。北山，東山，そして西山”の文で始まる。川井啓市教授の「胃 形態とその機能」は，“胃・十二指腸の基本構造”の胃の系統発生に始まって，“他臓器疾患と胃疾患—臓器相関の基礎から臨床”の章で終わる。

この本の初版は1975年，それから約20年の歳月の流れは実に重かった。初版の序に，川井啓市教授が深い謝意を表した方は恩師の増田正典教授のほか，村上忠重教授，白壁彦夫教授，高田洋博士，加藤守彦博士，それに作家の秦恒平氏であった。これらの消化器病学の先学の名前が，“沖の干潟遙かなれども，磯より潮の満つるが如し（『徒然草』）”を示して，われわれを肅然とさせる。

筆者はこの初版本も愛読したが，この第2版は改版というよりも，むしろ新版である。形態と機能の両軸を凝視し，いずれにも偏せず，深く

て長い研究をしてきた川井哲学は更に深遠となっている。内容は全く刷新され，更に広い視点に立って，今話題の *H. pylori* まで詳細に述べてあるが，初版の“川井胃学”の真髓がそのまま継承されているので，これほどの大規模の改変にもかかわらず，第2版となった理由であろう。

それにしても，この本に注いだ彼の情熱のものすごさと，胃学（ガストロジー）に対する思想の深さ，豊かで柔軟な彼の思考力にむしろ驚嘆した。筆者は，ときに増田正典先生を北山殿に例え，川井教授を東山殿に例えてみることもある。周知のように，北山文化と東山文化の質の差を，金と銀，華麗と枯淡というように，対照的に論じるのが世の習いであるが，両者に共通する特質は何かということ，この新版でもって，改めて考えさせられた。増田正典先生の知性と情熱は，確かに川井教授が受け継いでいる。

各章にちりばめられた絶妙なコメントの見事さ，これはシンフォニーの名指揮者のタクトを思わせるし，この川井教授の個性ある明確な指揮によって，普段から読み慣れているはずの各分担執筆者の筆さえ一層冴えている。

思うに，この第2版までの長い年月は，消化器病学の急速な成長期でもあったが，川井教授の英才と円熟さに更に十分な磨きがかかった貴重な年月でもあったし，それがよく現れている本である。これだけ見事に，編者と分担執筆者の呼吸がぴったり合ってきた本は実に珍しい。本書は，how to ものの医学書が氾濫する今の時代に得た大きな収穫であり，ここに最高級の傑作として広く推薦する次第である。

● B5 368頁 図148 写真76
 原色図45 1994 定価21,630円
 （税込）〒450

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)